

(仮称)阪南市西部丘陵地区産業集積用地造成事業

が『**中断**』になると、**風**の噂で伺って、

土井達也のコメント

和歌山県串本町では、ロケットの打ち上げ場を作るのに、民間事業者と町長が自ら、説明会に出席し、住民に事情を話しているそうです。

まちのリーダーが、必要な事業については前面に立ち、次回、当選するか、落選するか分からないけれど、命懸けで説得して回る訳です。

今回の事業、有識者から「認識が**薄い**」と言われている通り、阪南市や事業者は、盛土リスクや残土処分場に対する認識も覚悟も、ペラペラだったということです。

市からは何の説明もなく、事業者は無邪気に事業採算性から土砂ビジネスを持ち出す。

一市民の立場からは、この間、市民不在で、「**恐怖**と**絶望**」しか言葉が見つかりませんでした。

こういう事業者や市が、今回の大規模な事業を行うと非常に危険だったと思います。

私は悪者になりましたが、この「中断」は正解だと思います。

みなさまのお陰で、こういう結論となりました。

さて、一般的に、今般の大規模な土地の造成工事は、多くの訴訟が提起されるので、大手は扱えないんだということを大手ハウスメーカーの方から伺っていました。

また、事業を中断する理由について、私の武勇伝に一頁が加わり、土井達也・伝説にいろどりを与えて頂きました。しかし、あの理由で、民間企業が事業を永久・中断する訳はないのです。民間の場合、理由は単純。採算性が合わないことです。そして、私は、それを証明する資料等を持っています。

環境アセスで、大阪府として過去最大の意見書数、吉村洋文大阪府知事からの意見書では通常 10 項目程度のところを 70 項目も指摘がなされ、大阪府も阪南市も専門家の補充や環境アセスを運営する費用、意見書外注の費用、都市計画審議会運営の費用など税金も投入されているなか、いまさら「採算性が合わない」ので辞めるとは、言えないのです。今頃なにをいっているんだと信用問題です。そこで、使えるカードは、私しかなかったということだけだと考えています。

その他、たくさんの「これは・・・」という事実を確認できましたが、今後の取り組みのなかで整理していきたいと考えています。

最後に、今回のこの 7 ヶ月にも及ぶ間に、「政治の過程の何をもって、行政は推進力を得たのか？」という点に重大な関心を持ちました。我々の民主主義の根本に関わる話です。

つまり、選挙において、「マニフェスト」や「公約」の重要性が叫ばれて久しいにも関わらず、市長選挙や市議選で、皆さんとの約束は、当選すれば何でもありになっている現在の阪南市政に、今回は、明確に重大な疑問を持ちました。

「子ども館」と同様のことが5, 6年のうちに生じてしまう阪南市とは、いったい何なのか? 、と。

まず、このような市政運営の是非を今回の選挙で問います。次に、私が当選した場合、この反省に立ち、今回の市営運営についての「検証」と、今後このようなことを起こさないためにはどうしたらよいか「検討」を行うため、「検証・検討 市民会議」を立ち上げ、文字通り検証・検討を行い、結果を府民のみなさまに公表し、今後広域で活かして参ります。

最後の最後に、どんな政党であれ、結局は、個人です。何をする人か分からない人を当選させるから、こんなことになるのです。このまちで、何千万円もかけて行う選挙、この選挙のあり方を私を変えていきます。

つまり、「マニフェスト選挙の実現、そして、徹底」です。この「マニフェスト選挙」の推進を大阪の先頭に立って、行っていく所存です。

今後とも、宜しくお願い申し上げます。

令和5（2023）年3月10日

大阪府議会議員
土井 達也